

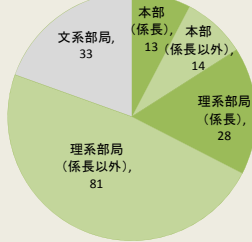
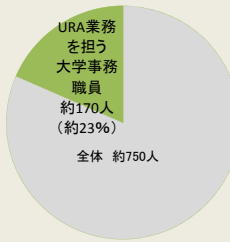
私は、URA職と大学事務職員の連携のあり方について関心を持っています。大学の限られたリソースで研究者支援の向上(質・量ともに)を考える場合、URA職だけでなく、大学事務職員の力も有効に引き出すことが重要と考えます。このため、大学事務職員のマインド・課題をアンケートで把握することを通じ、関心に迫ってみました。アンケート結果を皆さんと共有させていただくとともに、URA職と大学事務職員の連携のあり方について、URA職や大学事務職員の皆さんと意見交換したいと考えております。

アンケート内容

大阪大学におけるURA業務(外部資金関係)を担う常勤の大学事務職員の概要

【大学全体での位置づけ】

【URA業務を担う大学事務職員の内訳】



※調査範囲を明確に設定するため、会計系、研究協力系の業務に従事している職員を算出。総務系は今回は一部例外を除き数には含まれていない。※本算出は発表者が独自に行ったもので、大阪大学として認めた数字ではありません。目安とお考えください。

本部及び理系部局の係長相当の職を中心に個別にアンケートを依頼し、うち19名(係長15名)から回答を得る。(調査期間8月8日～9月12日)

研究関連業務における研究者のサポート業務に関するアンケート(選択式(自由記述可) 複数回答可)

- 問1. 現在担当している研究関連業務において、どのような研究者のサポート業務をされているかお教えください。
- 問2. 1.のサポート業務を遂行する中で、課題と思うことを教えてください。
- 問3. 1.の他に、事務系職員による研究者のサポート業務として、何があれば良いとお考えですか。
- 問4. 事務処理業務もある中で、研究者のサポート業務に積極的に取り組むためにはどのようなことが必要とお考えですか。思いつづものを教えてください。
- 問5. 今回お答えいただいた研究者のサポート業務について、将来、どのような体制(組織体制、システム、処理手続きも含む。)で進めていくと良いと思いますか。お考えを教えてください。

※係長相当の職を中心にしたのは、事務職員の中で一定の経験年数があり、大学(部局)全体の業務がある程度把握できている役職の方であるため。

アンケート結果

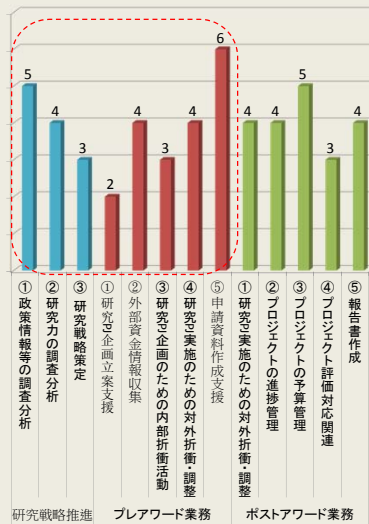
問1 現在行っている研究者サポート業務は

→現状は、ポストアワード業務への比重が多い。→ポストアワード業務の中でも、評価対応や進捗管理、対外折衝などの業務は多くない。



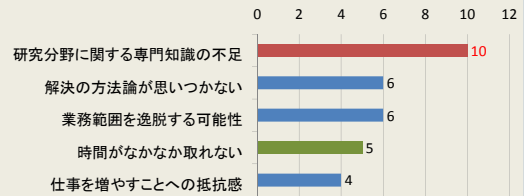
問3 現在のサポート業務以外で、職員として業務としてあれば良いと思う業務は

→現状と比較して、研究戦略推進支援、プレアワード業務があれば良いと思う大学事務職員が一定数いる。



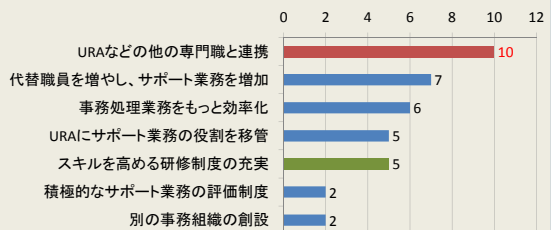
問2 現在、研究者サポート業務を行う上での課題とは

→半数が研究分野に関する専門知識の不足を課題に挙げている。



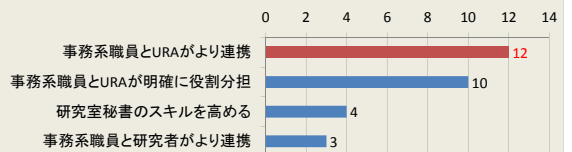
問4 研究者サポート業務を強化するための方策とは

→URAなどの専門職との連携を望む声が多い。



問5 研究者サポート業務の望ましい将来像とは

→URAなどの専門職とより連携もしくは役割分担と回答する声が多い。



【自由記述ではこんな意見も】

数年おきの人事異動で、異動のたびに研究分野に関する専門知識を身に着けるのはあまり現実的ではないが、ある程度の専門知識があればできることが増えるのも事実。通常のローテーションのキャリアパスとは別に「畑」のある程度の時点で決めて専門性を深められるようなキャリアパスを設けてもよいのではないかと。

「研究支援業務」が包括する中身(部署によって異なると思います)を、きちんと整理して事務組織内、教員内で共有することが必要ではないかと。

手をかけて支援業務を行っても個人の勝手なサービスとみなされて教員に感謝されることが報酬になっている。教員からのフィードバックを受ける仕組みをつくることも必要ではないかと。

意見交換



今後も、URA職と大学事務職員の連携のあり方を考えていきたいと思っています。あなたの大学の事例やURA職と大学事務職員の連携の事例などを是非聞かせてください。

Mail: hanaoka-h @ office.osaka-u.ac.jp

